

Ⅱ-3

児童生徒の理解が重要です

(1) はじめに

特別支援学級に在籍する児童生徒の理解は、一人一人を多面的・総合的に理解していくことが重要です。日頃から児童生徒の気持ちを敏感に感じ取ろうという姿勢を大切にしましょう。

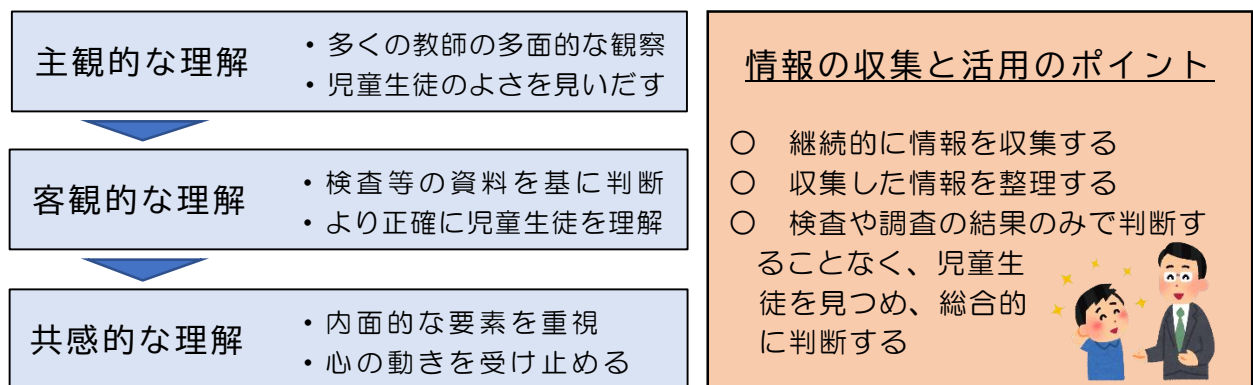
学校生活のどのような場面でどのような行動が見られるのか、「障がい」として理解するのではなく、日常の行動観察により、個々の児童生徒の「特性」として理解し、対応の工夫をすることが大切です。その際は、障がいやできないこと、問題となる行動ばかりに目を向けるのではなく、児童生徒ができるようになったこと、得意なことや好きなことに目を向けることが重要です。

「障害のある子供の教育支援の手引」文部科学省（令和3年）

「生徒指導提要」文部科学省（平成22年）

(2) 児童生徒理解の進め方

児童生徒を深く理解するためには、主観的な理解から客観的な理解へ、さらに共感的な理解へと段階を進めていくことが大切です。



「学校教育の手引」北海道教育委員会（令和3年）

(3) 指導や支援に向けた情報の収集

児童生徒の障がいの状態は一人一人異なっており、多様であることから、一人一人の教育的ニーズに応じた指導内容や指導方法の工夫が必要となります。

そのためには、指導や支援に必要な情報を多面的に収集し、指導計画の目標設定に向けて情報を整理することが大切です。

